

「講師 60 人から見た日本の産業」
---経友会講座 5 年の軌跡---

1. はじめに・・・経友会とは

1999 年、経済学部創立 50 周年記念シンポジウムを機に、21 世紀への学部活性化をめざし開設

1) 設立の趣旨

- ・経友会会員が実学の講師をする
- ・商人の大学としてベンチャー育成、都市型大学として海外の大学と国際交流(単位交換)
- ・相互のグレードアップ、会員のビジネスネットワーク構築
- ・大学からの「経友会講座」要請(学生と卒業生との靱帯、愛校精神)

2) 目的

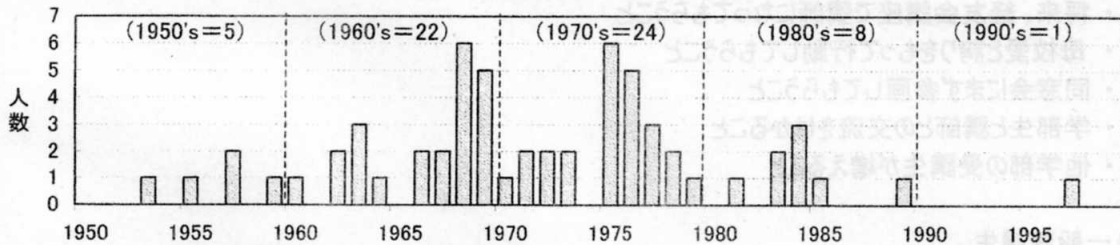
- ・経友会存続の中核的活動となりうるもの
- ・学部活性化の起爆剤(記念講座の体験から)
- ・学生と卒業生を結ぶ橋渡し役(相互のメリットとグレードアップ・母校愛)
- ・OB産業人のビジネスネットワーク

(出所:2005-10-6 経友会講座 1①レジメ)

2. 講師 60 人から見た日本の産業

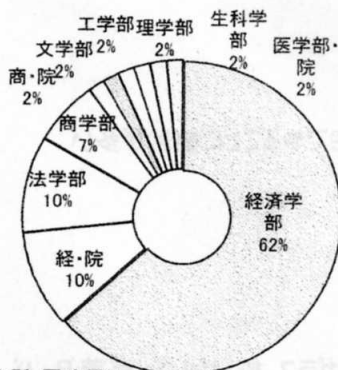
1) 講師のプロフィールと視点(図 1~4、表 1、2)

図1 講師60人の学部卒業年次



出所:大阪市立大学公開授業 経済学部企画講座
(経友会講座)平成17年度~21年度)

図2 出身学部



出所:図1と同じ

図3 現職

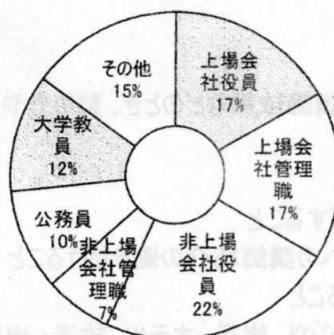


図4 業種



出所:表1と同じ

2) 業種別の動向・・・今年度講義した業種を中心に(パワーポイントにより説明)

3. 経友会講座の成果

1) 学生(聴講生含む):履修人数と出席数(図3, 4 参照)

- ・各業界で働く先輩から直接「生の話」が聞け、職業選択の一助になったこと

図3 履修者の推移(2005~09年度)
累計3,811名(学生3,605 聴講生206)

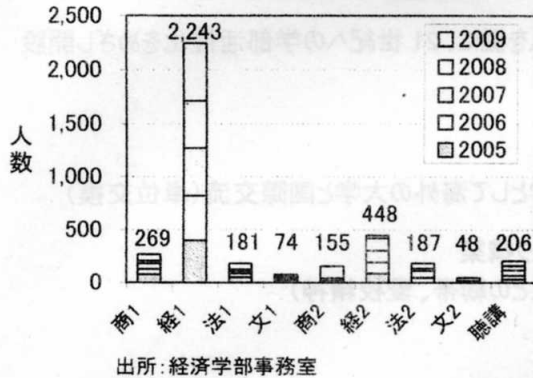
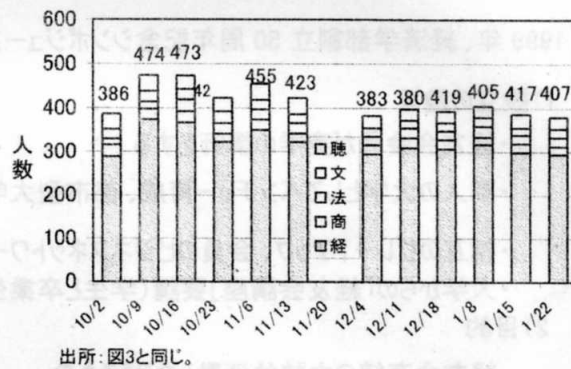


図4 出席カーと提出者(2008年度)



2) 大学(経済学部および他学部)

- ・学長はじめ経済学部教員と経友会との信頼関係が深まったこと
- ・文科省・学術振興会の「大学推進プログラム採択」の一助と経友会の協力体制ができたこと
- ・経済学部の取り組み・・・「4年一貫の演習と論文指導が育む学士力」(2009/10~12/3)

3) 経友会・・・認知されたこと

- 4) 講師・・・母校の教壇に立って喜んでもらえたこと

4. 私の5年間の想いとお願い

1) 現役受講生・・・母校回帰を!! 「鮭や海ガメ」は、母川や母浜に回帰する

- ・将来、経友会講座で講師になってもらうこと
- ・母校愛と誇りをもって行動してもらうこと
- ・同窓会にまず参画してもらうこと
- ・学部生と講師との交流をはかること
- ・他学部の受講生が増えること

2) 一般聴講生

- ・市大の良さをわかってもらうこと
- ・継続して参加してもらうこと

3) 大学

- ・教員の講師紹介の協力
- ・スタッフの学部内外での位置づけ
- ボランティアの限界・・・たとえば、講師依頼などのとき、勤め先や自宅でやることに制約が多い

5. おわりにかえて・・・継続は力なり

1) 講師の人材データベースを構築すること

- ・有恒会支部など同窓会組織への講師紹介の働きかけること
- ・未講義の業界人材を発掘すること

造船、ロボット、ケータイコンテンツ、旅行、ホテル、放送、出版、ガラス、紙・パルプ、医薬品・バイオ、空運、石油、メガバンク、証券、損保、人材サービス、介護サービス、元気なベンチャー企業など(日経業界地図 2009年版から)

2) 講師との交流をはかること

3) スタッフ(担当委員)の拡充と世代交代をはかること

